

薬剤師が習得すべきベッドサイドでの知識・スキルを学ぶ



薬剤師のための ベッドサイドティーチング 2014

キー局と全国ファイザーの拠点を双方向に結んで行われるWebセミナー

第 4 回

Question the status quo 循環器でどうしても外せない 七つのクスリ



セミナーコーディネーター

青木 眞 先生

感染症コンサルタント



演者

香坂 俊 先生

慶應義塾大学 循環器内科
第一三共心血管炎症学講座 特任講師

日時

2014年11月5日(水) 19:00～21:00

場所

ファイザー株式会社:郡山オフィス

福島県郡山市本町1-17-25 増子本町ビル 5階
(裏面 地図)

詳しくは担当MRにお尋ね下さい

※本セミナーは、日本病院薬剤師会生涯研修認定制度1単位の対象です。
※本セミナーは、公益財団法人日本薬剤師研修センターの認定薬剤師制度における
グループ研修受講単位(1単位)を申請できます。

主催 ファイザー株式会社

後援 福島県病院薬剤師会 郡山支部

第
4
回

Question the status quo

循環器でどうしても外せない七つのクスリ

●セッションの目的

心不全には利尿薬、狭心症にはニトロ、ずっと昔から決まっています。

しかし、半世紀を経て狭心症、心筋梗塞、不整脈、心不全、弁膜症など、循環器で扱う疾患の理解は大きく進みました。使えるクスリも増えており、今ではその組み合わせ方は無限大といってよいほどです。

しかし、です。医師側と患者さん側のツボをピタリとおさえることのできる「外せない」クスリはそれほど多くありません。おそらく六〜七つがよいところでしょう。

タイトルの Status Quo というのは「現状」を意味するラテン語ですが、様々な「現状」に対して疑問を投げかけることで現代循環器学は進歩を繰り返し、ここまでやってきました。その流れをトレースして、現代の循環器外来や病棟でクスリを実践的に使用していくためのポイントをカバーしていきたいと思います。

<なぜ、循環器内科か？>

医師と薬剤師の思考プロセスは自ずと異なりますが、目的は患者さんの予後改善という一点に集約されます。そしてエビデンスが多方面から集められ、高度に専門的な医療が要求される分野となった循環器内科は、チーム医療が最も威力を発揮する分野でもあります。このセッションを通じて循環器内科の医師側の思考プロセスを共有させていただき、参加者の皆様にはそれを日々の薬剤コンサルテーションに活かしていただければ幸いです。

○ 香坂 俊 先生 略歴

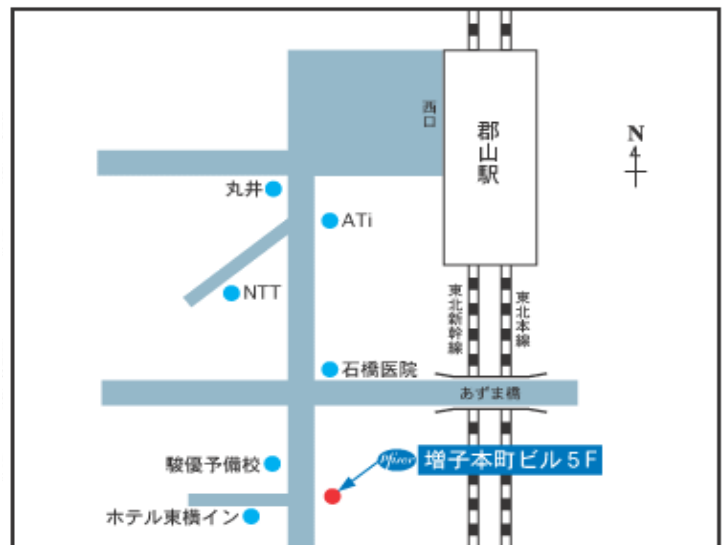
慶應義塾大学 循環器内科
第一三共心血管炎症学講座 特任講師

【職歴】

- 1997年 慶應義塾大学医学部卒業、国内で研修
- 1999年 コロンビア大学附属病院 内科レジデント
ペイラー大学附属病院 循環器内科フェロー
- 2008年 コロンビア大学附属病院 循環器内科スタッフ
- 2008年 慶應義塾大学病院 循環器内科
- 2012年 日本循環器学会/心臓病学会 教育研修委員
- 2014年 東京大学大学院医学系研究科
医療品質評価学講座 准教授 (併任)

交通のご案内

JR郡山駅より徒歩約5分



開催スケジュール (2014年度)

開催日	テーマ
第1回	終了 バイタルサイン編
第2回	終了 画像編
第3回	終了 呼吸器編

開催日	テーマ
第4回	11月5日(水) 循環器編
第5回	1月21日(水) 電解質・輸液編